

ふるさと歴史散歩

〔第145回〕 幻の庭園・龍仙寺の栢原山池 その二

栢原山池の由来によると、第13世釋大乘の父大隆の時から造営され、大乘の代に京都の庭園師清水七郎右衛門を招いて改修している。この庭園は背後の長福寺山（誰曾の森）の景観を借景として境内の南側にある自然の丘陵を利用し、その裾部（現在の幼稚園の位置）に泉池を配し、池を巡って散策できる周路を設けた回遊式の庭園である。池に橋を渡した小島が造られ、それを渡ると滝があり、林の中の1本の老櫨の緑蔭下に亭が造られている。春水はこれら6か所の景勝地に、尚素堂・水簾・繪亭・断続橋・三松階邸・送月塘の雅名を付ける程の惚れ込みようで、菅茶山も広島へ来た際に龍仙寺を訪れて「栢原山池六勝」として漢詩に詠っている。清水七郎右衛門は広島と縁深く、藩主重晟公が縮景園を大改修する際に招かれた。

江戸後期になると財力のあつた豪商が造園し始め、加計村のタタラ製鉄で財をなした鉄山師佐々木八右衛門が吉水園、また高田郡土師村の豪商沖野屋も滄浪園を造営したが、いずれも清水七郎右衛門が大改修している。栢原山池の老櫨は、この庭園の中心にあり、そこに正真木と称して松か櫨を植える江戸中期以降に展開した造園の基本に一致するのは京の庭師の粹と見ることが出来る。それがこの庭園の魅力として藩主だけでなく著名な文人たちを惹きつけた大きな理由であつた。

菅茶山は、来遊して詠んだ詩文の中で、中国東晋の名僧慧遠が自己の隠遁する廬山の東林寺に訪ねてきた陶淵明らを送るのに歩きながら話に夢中になり、日頃決して渡らない虎溪をいつの間にか渡ったことに気付き、大笑いした故事を連想させるほどの名勝地と褒めた。また、六勝を命名した春水もこの景勝は一幅の絵であるとの絶賛している。茶山は郷里の神辺の地に私塾「黄葉夕陽村舎」（廉塾として有名）を開き、山陽を塾頭に迎えたのは、山陽が龍仙寺の栢原山池に来遊した文化6年と同じ年の12月であつた。その後、山陽は京都に出て学業を完成させて学者・文人としての名を不動のものにした。

府中町文化財保護審議会会長

横田 禎昭

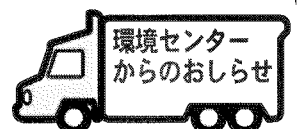


栢原山池があつたりゅうせん幼稚園付近



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター(八幡四丁目1-1) ☎286-3266



特別収集日

午前8時30分までに
ごみステーションへ出してください。

2/11(木) 建国記念日	○普通ごみ【月・木曜日収集地区】
	○有価物【木曜日収集地区】
	○大型ごみ【柳ヶ丘1~40】

*環境センターへのごみの持ち込みは受け付けていません。

ごみは指定されたごみステーションへ

ごみステーションは、地域のみなさんが日頃から自発的に清掃等維持管理を行っています。ごみを指定されたごみステーション以外に出すと、その地域の人の迷惑になります。ごみは、ご自分の居住地の指定日に指定された場所へ出してください。



ごみの不法投棄は、犯罪です！
不法投棄を目撃した人は、警察に通報してください。

ごみステーションに出せないごみ

次の表のものは種類ごとに処分方法が違うため、ごみステーションに出してはいけません。詳しくは、冊子「平成27年度家庭ごみの正しい出し方」または、「ごみの出し方辞典(50音順)」で確認してください。

※悪質な場合は、厳正に対処します。

一時多量ごみ	庭木の刈り込みなどで一度に3束・3袋以上の多量ごみ、引越に伴う多量ごみ、個人による家の簡易な改装によるごみ、敷地内の多量の土砂、側溝の泥など
事業所ごみ	商店、飲食店、病院、工場などの事業活動により発生したごみ
その他	石油類(ガソリン・灯油)、エンジンオイル、機械油、農薬、殺虫剤、ピアノ、オルガン、タイヤ、ホイール、オートバイ(原付含む)、バッテリー、未使用の消火器、ガスボンベ、石膏ボード、耐火金庫、注射針等の鋭利なもの、感染性があるもの、家電4品(エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機)、パソコン(本体・ディスプレイ)



ごみを出す時間にご注意を！
前夜や早朝に出すとカラスが荒らすことがあります。